

緑の相談所だより

No. 100

編集 ・ 発行

財団法人 旭川市公園緑地協会 旭川市緑の相談所

発行日
平成 18年 6月 1日

講習会のご案内

6 月

「サツキの花後の育て方」

とき 平成 18年 6月 4日(日) Pm 1:30 ~ 3:30
講師 旭川サツキ会 土井 吉夫 さん 定員 50名

「山野草の育て方」[初級]

とき 平成 18年 6月 11日(日) Pm 1:30 ~ 3:30
講師 北海道山草趣味の会 田中 哲三 さん 定員 50名

「花・庭木の診断と手入れ」

とき 平成 18年 6月 25日(日) Pm 1:30 ~ 3:30
講師 フラワーマスター 佐藤 文男 さん 定員 50名
会場 永山中央公園 管理棟休憩室

7 月

「バラづくり実践 ①」 [剪定と育て方]

とき 平成 18年 7月 2日(日) Pm 1:30 ~ 3:30
講師 旭川バラ会 後路 和美 さん 定員 50名

「花・庭木の診断と手入れ」

とき 平成 18年 7月 9日(日) Pm 1:30 ~ 3:30
講師 緑の相談所 相談員 佐藤 吉光 定員 50名

「フラワーアレンジメントはじめてみませんか？」 [基本をマスターして、おもてなしアレンジをつくきましょう]

とき 平成 18年 7月 16日(日) Pm 1:30 ~ 3:30
講師 第1級 フラワー装飾技能士 寺岡 るみ さん 定員 40名
教材費 1,200円 持ち物 ハサミ

展示会のご案内

「サツキ展」

とき 平成 18年 6月 2日(金) ~ 4日(日)
Am 9:00 ~ Pm 5:00

協賛団体 旭川サツキ会

「山野草展」

とき 平成 18年 6月 9日(金) ~ 11日(日)
Am 9:00 ~ Pm 5:00

協賛団体 北海道山草趣味の会

「バラ展」

とき 平成 18年 6月 30日(金) ~ 7月 2日(日)
Am 9:00 ~ Pm 5:00

協賛団体 旭川バラ会

催し物のご案内

「花フェスタ 2006」

とき 平成 18年 6月 14日(水) ~ 18日(日)
Am 9:00 ~ Pm 4:00

会場 大雪アリーナ

* 会場内に特設の相談コーナーを設置しております。

「緑のセンターまつり 2006」

とき 平成 18年 8月 6日(日)
Am 10:00 ~ Pm 4:00

会場 旭川市 緑の相談所

* 「緑のセンターまつり」の開催を予定しています。

今年も様々な企画を考えていますのでお楽しみに。

お申込み・お問合せ・ご相談 など
☎ (0166)65-5553

旭川市緑の相談所まで。お気軽にお尋ね下さい。

ペチュニア [その] ナス科ペチュニア (ツクバネアサガオ) 属

世界中の花壇を飾り、世界の庭を制した花といわれるペチュニアについてご紹介します。

19世紀の初頭以来幾多の改良が重ねられ、今や私たちの園芸シーンには欠くことのできない花となりました。

ペチュニアでは世界のサカタといわれている坂田種苗KKの須田峻一郎氏のレポートから品種などの関連事項を数回にわたって紹介します。



発 見

ペチュニアの原種は、アルゼンチンからウルグアイに広がる茫漠たる草原パンパスと起伏の多いブラジル南部の高原地帯に自生しています。

ペチュニアを初めて発見したのは、ブーゲンビリアという花の名にもなったブーガンビル提督が率いるプラントハンターの世界周航船に同行いたフランスの植物学者コメルソンという人で、南米で多くの植物を発見しています。彼は1767年5月ウルグアイのモンテビデオでペチュニアの白花種を見つけその標本をパリの植物園に送りました。これがペチュニアの花が世界に発現した最初です。しかし、残念なことにパリでの受け入れ体制が悪く届きませんでした。その後、1793年になって別の学者によってタバコ属の一種として発表されたのです。

1803年になって初めてブラジルの現地語ペチュンからペチュニアという属名がつけられました。再度ペチュニアの種子が欧州に渡るのは発見以来半世紀後のことでした。

交 配 と 育 種

今から170年前、イギリスの幾人かの園芸家が南米から伝わった2つの野生のペチュニアの交配を始めました。これが現在の幅広い色彩、花形などの出発点です。

中輪で夜に香る白い花のアキシラリスと赤紫色の小さい花を咲かせるインテグリフォリアという野生種から始めて改良種が誕生したのが、1834年です。

1828年にはすでに苗の販売がされ、また1835年には種子販売もされた記録があります。

これらは主に19世紀のイギリス貴族が自分の持つ広い領地の庭に珍しい植物や新品種を競って植え、その使用人の園丁が競って主人のために新品種づくりに挑戦したそうです。2mもの大きな木に700もの花をつけたものや、7.5センチの大きな花やラベンダー色の品種など花の育種競争の始まりでした。その後、フランス、ドイツなどにこの競争が波及しました。

(次号、日本へ渡来から)

展示室の植物たち シリーズ「8」

サンジャクバナナ バショウ科バショウ (ムサ) 属

【 今年、3年目の株がいつもよりたくさん、結実！ 】

熱帯地方に広く分布し、地上に葉鞘でできた茎(偽茎)を有する多年草です。

高さが5mにもなる大型種もありますが、本種は観賞用として改良された矮性系統で広く国内で温室栽培されています。高さは2mくらいで、果実は美味しく熱帯果樹の花形です。



日本最後の花見

桜は日本の国を代表する花であると同時に日本列島における花暦の代表であります。

昔から農村では稲作を始めとした、農作業の段取りの季節指標のひとつに桜の花が用いられていました。マスコミの桜前線は1月下旬の沖縄県の「カンヒザクラ」の開花から北上し、鹿児島県からは「ソメイヨシノ」に代わり、北海道まで利用されています。

道内では岩見沢から「オオヤマザクラ」に代わり、日本最後の開花情報は根室の「チシマザクラ」で終了します。旭岳温泉のロープウェイ駅前にある、小さな公園の「チシマザクラ」は6月中旬になって、やっと開花します。日本最後のお花見してみませんか？



サクラメモ

日本には下記 の9種類のサクラの原種が自生しています。

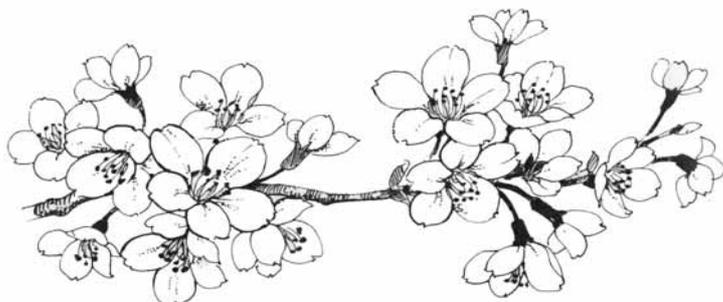
ヤマザクラ ・ オオシマザクラ ・ エドヒガン
マメザクラ ・ チョウジザクラ ・ オオヤマザクラ
カスミザクラ ・ タカネザクラ ・ ミヤマザクラ

北海道には上記のうち、4種類の原種のサクラが自生しています。

エゾヤマザクラ	}	オオヤマザクラ
ベニヤマザクラ		
カスミザクラ		ケヤマザクラ
タカネザクラ		ミネザクラ
ミヤマザクラ		シロザクラ



「チシマザクラ」(エトロフザクラ)はタカネザクラの変種なので、原種には入りません。



6月の園芸作業

1 草花・球根・鉢花類

ペチュニア等の横に広がるタイプは、植えつけたら枝先を刈り込みます。2~3回のピンチを行い、こんもりとしまった株に育てます。また、株が乱れたら切り戻しましょう。

チューリップは葉が黄ばみ始めたら葉茎をつけたまま掘上げ涼しい場所で乾燥、貯蔵しましょう。

ダリア、カンナは地温 10 以上にならないと萌芽・発育しないので低温に注意しましょう。グラジオラスは植え込み時期を2週間位空けると花期がずれて長く花を楽しむことができます。

ジャーマンアイリスは花後に株分け植替えしましょう。ポインセチアは中旬までには剪定し、植替えましょう。ハイドランジア(西洋アジサイ)は花後早めに株元の1~2節(葉)残して剪定し、植替えをして新芽を育てます。

花の終わったハイビスカスやブーゲンビレアは剪定・整枝・植替えをしましょう。

2 庭木・果樹類

シャクナゲは花後、子房(種子)の下から摘み取り、ライラックは花房を切り取りましょう。

ポタンは花びらが散ったら、花と下の葉の間で切りましょう。

ツツジ類、ライラックは花後すぐ剪定しましょう。

イチイ、シンパク、ヒバ、ツゲ等は適時剪定しましょう。イチイ、マツ類、エゾマツ、トウヒ等は移植の時期です。枝が多く伸びているものは枝すかしや芽摘み等をして移植しましょう。

マツ類は、勢いよく伸びる新芽から折り、数日をかけて摘み取りましょう。

バラ、ポタン、シャクナゲ等は根の乾燥を嫌うので腐葉土やピートモス等を根際に敷きましょう。

ブドウは芽かき(1㎡当たり7~8芽程度残す)をして、新梢は良く日の当たるよう誘引しましょう。

リンゴ、ナシはなるべく早く1ヶ所から出た複数果実を摘果し、形が良く大きい果実を一つ残しましょう。

シンクイガの防除のため、リンゴ、ナシ等は袋かけ(6月下旬~7月上旬)をし、プラムやプルーンは殺虫剤を散布しましょう。

7月の園芸作業

1 草花・球根・鉢物類

ハボタン、パンジー、デージーの種まきの時期です。

掘り上げた球根は網袋に入れて秋まで貯蔵し、チューリップは青カビの発生に注意しましょう。

ユリの早咲きの種類は今が開花時期です。花が終わったら早めに花がらを摘み取り、切り花として楽しむ場合、葉は下から3~5枚残しましょう。

戸外に出した鉢花のダニ防除のため、葉面散布を励行しましょう。

アデニウムの枝が大きく伸び過ぎた場合は剪定する良い時期です。切り戻した枝は挿し木に適する大きさ10cm程度に調整し、火山礫等の用土に穴を空け3分の1程度挿しましょう。

シクラメンは戸外の半日陰に置き、水やりや施肥を続け葉の成長を促しましょう。

花芽形成期になるアザレア、ツツジ類、シャコバサボテンは今月で窒素肥料は打切りましょう。

ポインセチアは生育が盛んな時期ですので肥料と水は切らさないように管理しましょう。

2 庭木・果樹類

イチイなどの玉物や生け垣は刈り込みが終わった後に徒長枝は剪定しましょう。

シャクナゲ等は花が終わったら直ぐに花茎から摘み取り、化成肥料を与えましょう。

松柏類の芽摘みと、春から伸びて成長が止まった枝を切り詰めて挿し木(縁挿し)しましょう。

ライラック、レンギョウ、フジ、ツツジ等は翌年花となる芽が茎頂や葉えきにできる時期なので、リン、カリを多く含む肥料を与えましょう。

7月下旬、プラム、プルーン等にシンクイガが2回目の産卵を始めますので、殺虫剤をかけましょう。また、実が腐ってくる灰星病等も発生するので殺菌剤をかけ予防しましょう。

ブドウの1枝に1~2房残し、他は摘み取りましょう。葉全体に日が当たるように枝を誘引し、副梢は1~2枚残して摘み取りましょう。

リンゴ、ナシ、サクランボ等は枝の背面から直立した枝(徒長枝)が勢い良く出て、日当たりを悪くしますので切り取りましょう。(夏剪定)